

農林水産省
輸出・国際局国際地域課参事官室 御中

「令和3年度輸出環境整備緊急対策委託事業
(輸出拡大に向けたインド主要都市圏の農産物・食品市場の流通構造・市場実態等調査)」

最終報告書

2022年3月24日



グローバルビジネス・グループ

〒164-8620 東京都中野区本町2-46-2 中野坂上セントラルビル

電話:03-6866-7189 FAX:03-5371-6965

目次

1 対インド戦略の基本的な考え方	3
2 流通構造調査	15
2.1 醤油	16
2.2 緑茶	26
2.3 酒類	33
2.4 チョコレート菓子	44
2.5 りんご	54
3 関税・輸出障壁調査	75
3.1 インド側輸入障壁の実態と解決アプローチ手段	76
3.2 関税率表	82
実施要項	86

2 流通構造調査

2.5 りんご (1) 流通構造・流通障壁

■ 輸入りんご

- ✓ インドのりんご輸入の流通シーズンは3月から7月である。8月から12月はインド産りんごが大量に流入するため、輸入量は一気に減少する。
- ✓ 大規模の輸入業者は、りんごを含むさまざまな果物を輸入し、デリーやムンバイを拠点にインド全土に展開するReliance Retail, Big Bazaar等の大手小売りチェーンを主要顧客としている。モダンリテール向けの輸入りんごは大規模輸入業者が担っている。（例：IG International, DJ exports, NGK trading, Yupaa Fresh Pvt. Ltd.）
- ✓ 中小規模の輸入業者は独自に果物をコンテナで輸入し、各都市のマンディ（州政府管轄の卸売り市場）に販売する。マンディの周辺には一次卸業者が集積しており、ここから地方の卸業者を段階的に通じて、各地の小売店への流通が行われている。
- ✓ シーズンに応じて、1月はトルコ、2月から6月は米国といった風に輸入業者は輸入相手国を使い分けている。安定的なりんごの流通確保が重要であるため、インド産が無いシーズンに輸入りんごを調達する。端境期には、両方の流通が重複する。

■ インド産りんご

- ✓ インド産りんごの流通シーズンは8月から12月である（※インド産りんごを貯蔵するためのインフラ整備や、農家の技術レベルの向上によっては、インド産りんごのシーズンがこれより拡大する可能性がある）。
- ✓ りんごの主要生産地であるヒマーチャル・プラデーシュ州と地理的に近いデリーの卸売り市場が各地に向けたりんごの集積地になっている。
- ✓ 一般的な青果と同様、マンディに集約されたりんごは一次卸業者から各地の卸業者を段階的に通じて、小売りへと流通している。
- ✓ 青果の輸入を主業としながらもシーズンに応じてインド産りんご、輸入りんごの両方を取扱う輸入業者も存在する。

■ 近年の傾向

- ✓ 米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の報告によると、インドのりんごの約70%は伝統的な小売り（地場の未組織の流通業者）による流通に支えられており、約30%は近代的な小売りにて流通していると推定される。

2 流通構造調査

2.5 りんご (1) 流通構造・流通障壁

■ 国内のコールドチェーンインフラ、天候に起因する障壁

- ✓ りんごの流通障壁としては、コールドチェーンの未整備、りんごの黒星病、霜や雹による被害などの国内生産の制約、樹木の高齢化などが挙げられる。この点については、インド政府による「高密度りんご植栽培*」が、ジャンムー・カシミール連邦直轄領とヒマーチャル・プラデーシュ州の果樹園を再生させて生産性の向上を図っているが、開発段階である。
- ✓ 近代的小売市場を販売先とするインドの輸入業者は、輸入りんごのコールドチェーン・インフラの構築に継続的な投資を行っている。しかし、保冷施設のキャパシティが限られている地域においては、流通のピークシーズンにおける施設の確保が課題となっている。
- ✓ それに対して、インド産りんごのコールドチェーンは整備が行き届いておらず、温度管理がされていない常温での長距離輸送も行われている。輸送過程のフードロスの発生に加えて、インド産りんごは良品から悪品質が混在しており、品質の均質性が図られていない現状が課題とされる。

* 2021年8月現在、カシミール地方全体で高密度植栽培のりんご園に転換された土地は252ヘクタールに留まる。州政府は、今後5年間でさらに5,000ヘクタールをこの計画に加える目標を立てている。事業促進のために、ヘクタールあたり175,000インドルピーの補助金が、資材、点滴灌漑、坊電ネットの費用に充てられる。補助金は50%が直接交付され、10%は生産者が負担し、残りの40%は融資による資金調達となり、6年間（2021～2026年）の期間限定で、0.5エーカー以下の生産者が特別優遇対象となる。

■ 輸入時の食品安全規制に起因する障壁

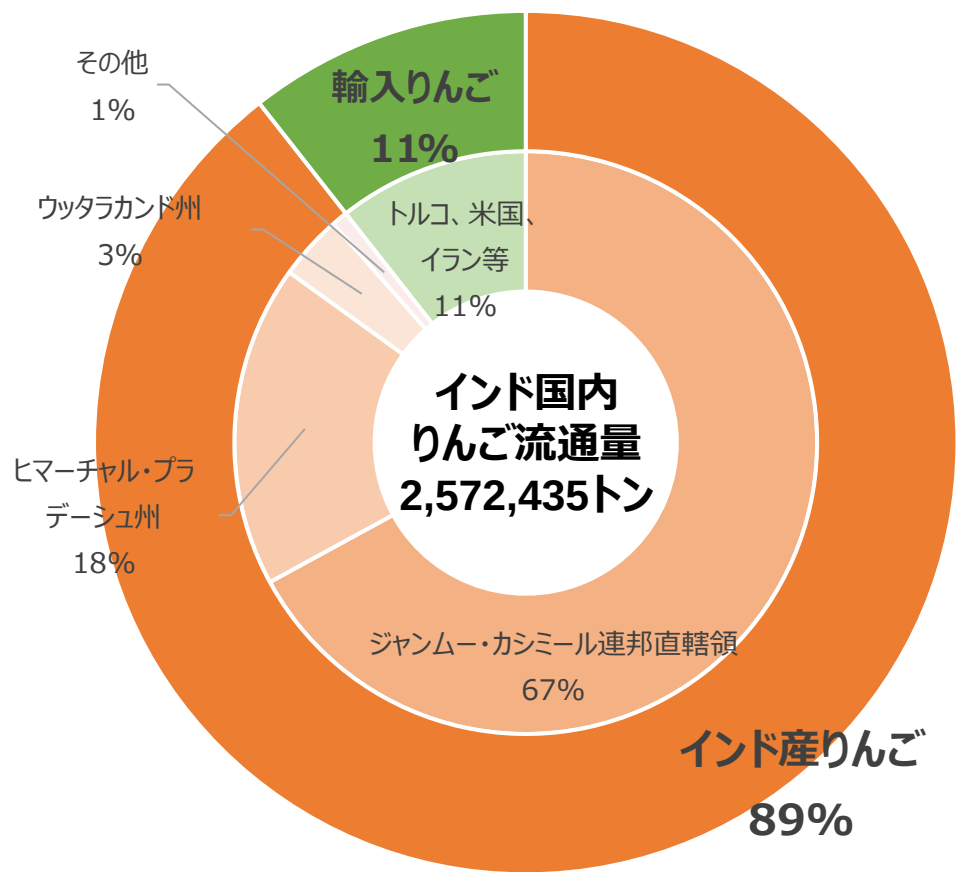
- ✓ 輸入通関に必要な食品安全基準局（FSSAI）による規制の動きも障壁の一因となり得る。
- ✓ 2021年3月1日より施行されたFSSAIによる新法は、りんごを含む生鮮食品の一部を対象に、非遺伝子組み換え生物証明書（Non-GM origin cum GM free Certificate）の提出を義務付けるものである。
- ✓ この新たな規制に対し、主要なりんご供給国は、植物検疫当局による証明書の発行に合意した一方、米国は証明書の発行に対応する姿勢を示していない。2021年7月27日のThe Hindu Business Lineの報道によると、米政府はWTOに対しインド政府は科学的正当性を示すべきと主張し、規制撤回を求めている。

2 流通構造調査

2.5 りんご（2）流通規模

- インド国内の年間りんご流通量は約257万トンであり、約9割が国内産、約1割が輸入産。
- 国内産りんごの大部分が北部の3州で生産されている。

【図表3-23 インド国内のりんご流通量（2020/21年度）（単位：トン）】



インド産りんご（7～6月）	2,300,000
ジャンムー・カシミール連邦直轄領	1,725,000
ヒマーチャル・プラデーシュ州	460,000
ウッタラカンド州	92,000
その他	23,000
輸入りんご（4～3月）	272,435
トルコ	43,674
米国	34,289
イラン	50,025
イタリア	27,937
アフガニスタン	26,199
ニュージーランド	23,162
チリ	20,025
その他	47,123
合計	2,572,435

出所：米国農務省海外農業局（USDA/FAS）報告書、Tradestat(インド商工省貿易統計)を基に作成

2 流通構造調査

2.5 りんご（2）流通規模

■ 輸入りんご

- ✓ インド商工省貿易統計によると、2020/21年度（4月～3月）のりんごの輸入量は272,435トンであり、インド国内のりんご消費量の約11%を占めている。
- ✓ 同年度の金額ベースでの市場シェアは、首位がトルコ（13%）であり、米国（11%）、イラン（10%）、イタリア（9%）、アフガニスタン（9%）、ニュージーランド（8%）、チリ（7%）と続いており、世界のりんご生産国同士が競い合う乱立した市場構造にある。

■ インド産りんご

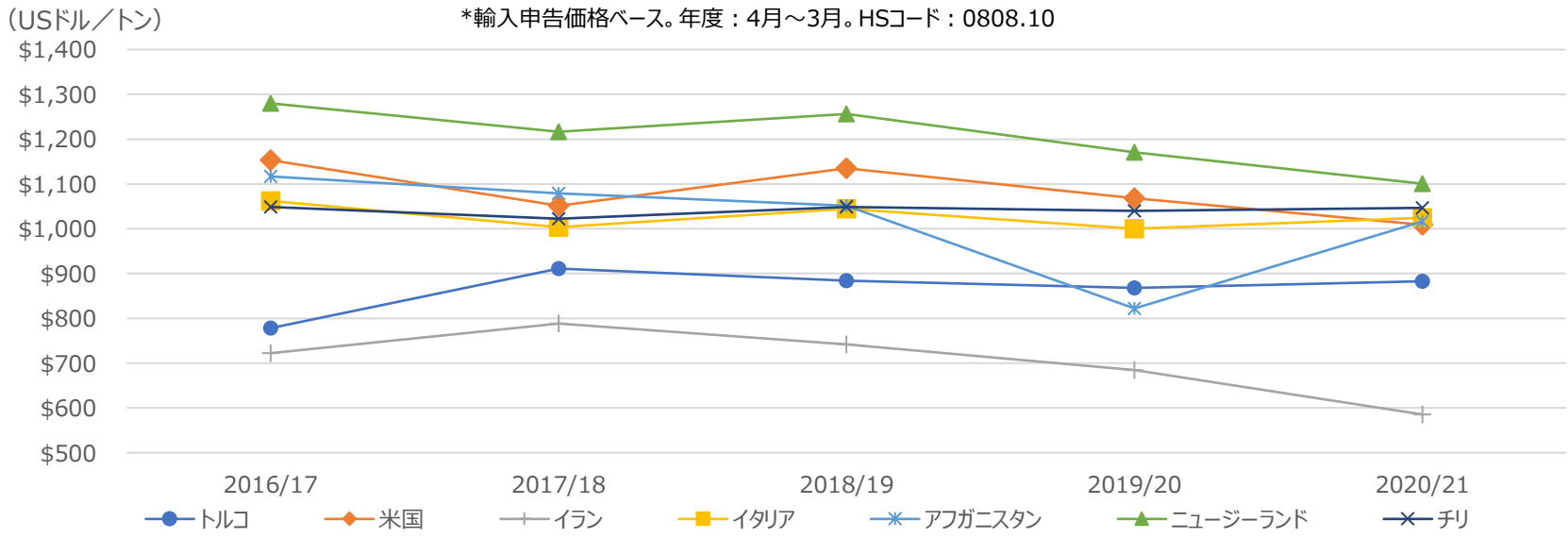
- ✓ 米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、2021/22年（7月～6月）のインド国内のりんごの生産量は、前年度とほぼ同水準の230万トンと推定される。
- ✓ 良好な天候、緩やかな経済回復、サプライチェーンの全般的な回復といった要因から、インド産りんごの生産・品質の向上が見込まれるが、国産りんごはインド国内の需要を満たせない状態が続いている。USDA/FASは、2022/23年のりんご輸入量は対前年19%の増加を予測している。
- ✓ 産地はインド北部に集中しており、ジャンムー・カシミール連邦直轄領が75%、ヒマーチャル・プラデーシュ州が20%を占めている。これら2州のりんご園の樹齢は30-35年で、レッドデリシャス、ロイヤルデリシャス、リッチレッドの各品種が栽培されている。
- ✓ ウッタラカンド州の生産量は全体の4%で、北東部のアルナチャル・プラデーシュ州、ナガランド州、シッキム州でも一部栽培されている。

2 流通構造調査

2.5 りんご (3) 輸入価格

- 2020/21年度(4～3月) の生鮮りんごの平均輸入通関価格は、ニュージーランド産、チリ産、イタリア産、アフガニスタン産、米国产の5ヶ国が1,000USドル～1,100USドル/トンの価格帯となった。

【図表3-24 主要輸入先別・インドのりんご輸入価格推移* (2016/17～2020/2021年度)】



	(USドル/トン)				
	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21
トルコ	\$778	\$911	\$884	\$868	\$883
米国	\$1,153	\$1,052	\$1,135	\$1,068	\$1,009
イラン	\$723	\$788	\$742	\$684	\$585
イタリア	\$1,062	\$1,003	\$1,045	\$1,000	\$1,024
アフガニスタン	\$1,117	\$1,079	\$1,051	\$822	\$1,016
ニュージーランド	\$1,280	\$1,217	\$1,256	\$1,171	\$1,100
チリ	\$1,048	\$1,023	\$1,048	\$1,040	\$1,047

出所：Tradestat(インド商工省貿易統計)を基に作成

2 流通構造調査

2.5 りんご (4) 輸入相手国の動向

■ 米国産

- ✓ 2020/21年度の米国産りんごの輸入額はトルコに次ぐ第2位であり、輸入りんご全体の11%をシェアを占めたが、2018/19年度の47%から大きく減退している。背景にある直接的な要因として、2019年のトランプ政権によるインド産の鉄鋼とアルミニウムに対する関税引き上げに対抗したインド政府による実質的な報復関税（りんごを含む米国産28品目）が挙げられる。
- ✓ さらに2021年3月より、FSSAIの新規制をによって、りんごの輸入には非遺伝子組み換え（Non-GM）証明書の提出が義務付けられるようになった。主要国の植物検疫が対応を進めている一方、2021年7月27日のThe Hindu Business Lineの報道によると、米国はこれを不当な要求とし、証明書発行に応じる姿勢を示していない*。
- ✓ りんごの主要産地であるワシントン州の生産者評議会Northwest Horticultural Councilは、インド市場から米国は締め出されていると表現し、インド市場で築いてきた米国産りんごの地位が危うい状況であると憂慮している。
- ✓ 評議会会長のMark Powers氏によると、米国からインドに輸出されるりんごの90%以上はレッドデリシャス種であるという。遺伝子組換えのレッドデリシャス種のりんごはそもそも存在せず、それ以外の品種においても遺伝子組み換えは商業的に取引されていないと主張し、インド側の規制はそもそも不当であるとしている。
- ✓ ワシントン州の2021年2月末までの対インド輸出量は約38万箱であり、2019/20年度の107万箱に対して64%減となった。さらに、インド政府による米国産りんごに対する報復関税、ワシントン州でのりんご収穫量の減少、輸出価格の上昇、他の生産国と比較した輸送時間の長さも逆風に挙げられる。

* 米国は2021年7月、WTO・SPS委員会に提出した資料の中で、インドはこの措置の科学的正当性とリスク評価を提供するか、さもなければこの措置の根拠となる関連国際基準やガイドラインを示さなければならないと繰り返し述べている。

2 流通構造調査

2.5 りんご (4) 輸入相手国の動向

■ ニュージーランド産

- ✓ 2021年シーズンのニュージーランド産りんごの対インド輸出は拡大した。ニュージーランド第一次産業省の統計によると、昨シーズンのりんごと梨の輸出のうち対インド輸出は5.5%であったが、今シーズンは2021年7月時点で8.2%を占めています。
- ✓ 20年以上に渡りインドにりんごを輸出するGolden Bay Fruit社によると、2020年の対インドりんご輸出はコンテナ10本程度であったのに対し、2021年は74本に達した。
- ✓ 同社によると、従来インドでは小ぶりのプレミアム商品が求められていたのに対し、今シーズンは2020年12末に雹が見舞われ、外観にダメージを受けたりんごが大量に輸出されたという。同社はインドのりんご市場は今後も拡大するとみており、ニュージーランド貿易企業局（New Zealand Trade and Enterprise）と連携して取り組んでいる。
- ✓ ムンバイに本社を多く青果輸入商社IG International社は、ニュージーランド産りんごの売上が対前年60%増を記録した。同社調達部門によると、パンデミックの影響で、消費者の健康に対する意識が高まり、新鮮な果物に対する需要が大きく伸びたという。
- ✓ 同社は、インド産りんごのオフシーズン期にニュージーランド産のりんごを市場に投入し、市場需要に対応している。2021年シーズンには初めてニュージーランドから6品種のりんごを輸入し、ミックスボックスで販売したところ好評を博したという。

■ ウクライナ、ポーランド産

- ✓ ウクライナ、ポーランドからの輸入りんごは収穫直後ではなく、3～4ヶ月間貯蔵後の市場流通が良いとされる。その理由として、CA/ULO貯蔵、DCA貯蔵、新規鮮度保持剤（1-methylcyclopropene, 1-MCP）処理後のりんごは高密度を維持し、ジューシーさは失われない一方、糖度は上昇するという。そのため、1～4月に出荷されたりんごは、10月に出荷されたりんごよりも甘くなるため、インドの輸入業者にとっては、重要な指標となっている。

2 流通構造調査

2.5 りんご (4) 輸入相手国の動向

■ トルコ産

- ✓ 2020/21年度のトルコ産りんご輸入額は数ある輸入相手国の中でトップの\$38,560千ドルであり、5年間で約14倍に増加した。主要都市を中心に、スターキング種、レッドデリシャス種、ガラ種、グラニースミス種等の品種が流通している。イランを除いた主要産地と比較すると安価であり、トルコ国内の生産量に応じてインド輸出はさらに増加する可能性がある。

■ イラン産

- ✓ 自由貿易協定により免税輸入が可能になったイラン産りんごがシェアを急拡大している。インドに輸入されるイラン産のりんごの大半はレッドデリシャス種であり、大量の安価のりんごがグジャラート州やマハラシュトラ州のインド西岸の港に海上輸送され、一部はインド北部パキスタンとの国境を経由して陸路で輸送される。
- ✓ イラン産りんごはインドの主要都市に大量に流入し、インド産りんごを脅かす存在となっている。ジャンムー・カシミール、ヒマーチャル・プラデーシュの生産者協会は州政府を通じて、イラン産りんごの輸入関税を引き上げるよう連邦政府への要請を継続している。

■ 中国産

- ✓ 世界最大のりんご輸出国である中国であるが、2017年7月に輸入りんごから病害虫が検出されたのをきっかけに、輸入禁止措置が取られたため、中国からのりんご輸入は大幅に減少している。しかし、インド当局はすでに中国産りんごを対象とした追加の安全検査の実施に合意していることから、状況が変わる可能性がある。両国間での交渉は継続中である。

2 流通構造調査

2.5 りんご (5) 消費者属性・利用形態

■ 消費者属性

- ✓ 多様な果物が流通するインドであるが、りんごは富裕層から低所得層に至るまで広く行き渡った一般的な果物である。適切な温度管理の下、近代的小売で販売されるブランド品種から、路上で販売される粗悪品まで、非常にさまざまな価格帯や品質のりんごが流通している。
- ✓ インドの人口の大半を占めるヒンドゥー教徒は甘い果物を好む傾向がある。しかし甘味の強い品種であるゴールデン・デリシャスは、温暖な気候では果汁が失われやすく、パサパサしてジューシーさに欠けるため、インドではあまり一般的には流通していない。
- ✓ 消費者の属性に限らず、インドでの輸入を含めたりんご消費量が伸びているのは、所得や人口の増加だけでなく、何よりも健康上の理由による。インドでは、りんごは他の果物と比較して免疫力を高める健康的な果物と考えられている。
- ✓ ハイパーマーケット、スーパーマーケット等のモダンリテールでは、外皮にワックスをかけたりんごが販売されていたが、過去の話になりつつある。近年では消費者の意識が変化し、ワックスをかけた果物は不自然であるとの考えが広まっている。
- ✓ インドでは、従来よりレッド・デリシャス種が好まれていたが、近年急速にその人気を失っており、ガラ種が台頭している。レッド・デリシャスやそのクローンであるレッド・チーフのような粒状の果肉よりも、均質でジューシーな果肉を特徴とするガラ種の方に消費者の嗜好が変化している。

■ 利用形態

- ✓ 都市圏の富裕層にとってりんごは日常的な買い物であり、多少の出費は惜しまない。ワシントンガラやハニークリスプなどの輸入品種を含めた高品質にプレミアム価値を見出す傾向がある。
- ✓ 新型コロナウイルスによる影響下、りんごは免疫力を高める食材としてメディア等にて紹介されたことより、青果の中から意識的にりんごを選択する動きが生じた。
- ✓ さらに、2021/22年度はナッツなどの木の実の小売価格が上昇したことで、りんごを含むフルーツバスケットを贈答品として代用するようになったため、売上増加に繋がったという。

2 流通構造調査

2.5 りんご（6）需要動向・展望

■ 需要動向・展望

- ✓ 輸入果物の中で最も消費量の多いりんごは、年間を通じて安定した販売量がある。
- ✓ 都市圏における富裕層、中間所得層の拡大による旺盛な購買意欲は、輸入ブランド品種の需要を力強く牽引していくと予測される。
- ✓ また、グリーンアップル品種の人気*に代表される新型コロナウイルスによって生じた需要の変化は、引き続き市場に影響を与える可能性がある。

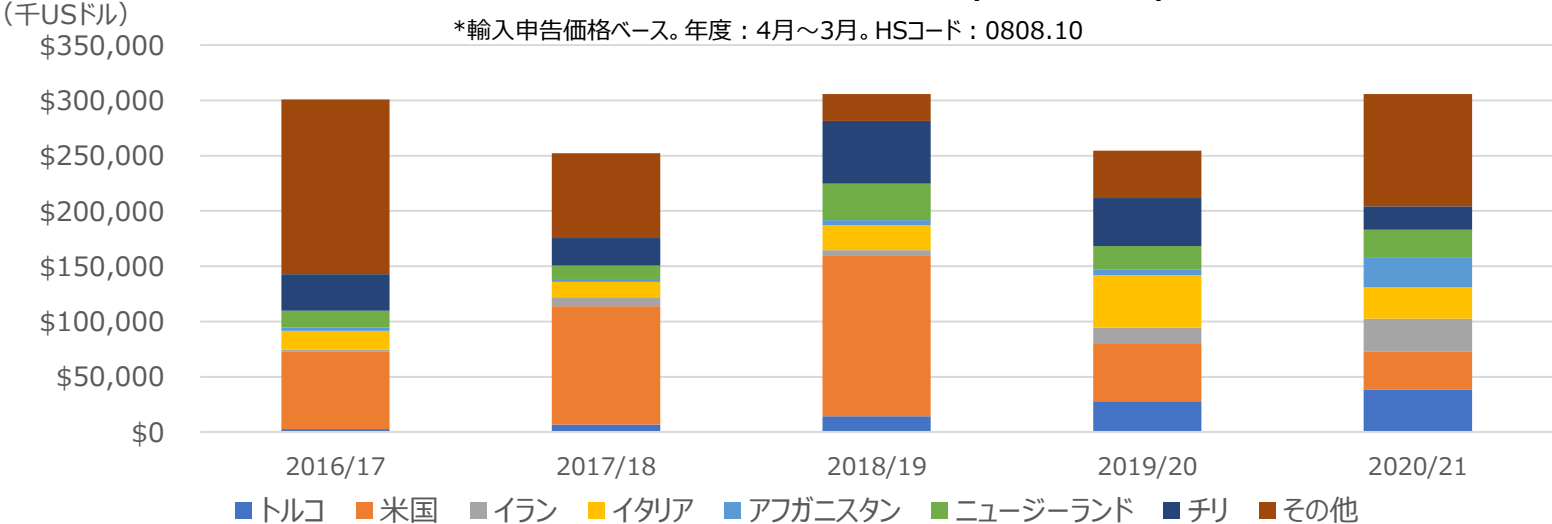
*インドでは新型コロナウイルスの蔓延以降、グリーンアップル品種はビタミンCが多く含まれている、果糖含有量が低い、肥料や化学薬品の使用が少ないといった俗説が広まり、市場のりんご需要に少なからず影響を与えた。そのため、インドのりんご輸入業者の間では、グラニースミス種やゴールデン・デリシャス種の硬い食感の青りんごの需要が増加した。

2 流通構造調査

2.5 りんご（7）インド側輸入統計

- 直近5年度でインドの年間りんごの輸入額は2.5億～3億USドル程度で推移している。
- 輸入相手国は年度によって変動し、多数のプレイヤー（産地）が乱立した競争環境にある。

【図表3-25 インドのりんごの輸入額推移*（2016/17～2020/21年度）】



輸入相手国		(千USドル)				
		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21
うち	合計	\$300,960	\$252,260	\$305,710	\$254,550	\$305,710
	トルコ	\$2,830	\$6,770	\$14,170	\$28,020	\$38,560
	米国	\$70,080	\$107,180	\$145,200	\$51,580	\$34,600
	イラン	\$1,460	\$7,970	\$5,120	\$14,730	\$29,270
	イタリア	\$17,110	\$14,030	\$22,650	\$47,490	\$28,620
	アフガニスタン	\$3,020	\$1,690	\$4,530	\$5,120	\$26,620
	ニュージーランド	\$15,350	\$12,910	\$32,940	\$21,240	\$25,490
	チリ	\$32,950	\$24,880	\$56,950	\$43,440	\$20,960
	日本	\$0	\$0	\$0	\$0	\$0
	その他	\$158,160	\$76,830	\$24,150	\$42,930	\$101,590

出所：Tradestat(インド商工省貿易統計)を基に作成

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-26 りんごの小売販売価格例（デリー都市圏）】

■ 店舗：グルガオン Le Marche @South Point Mall（2022年1月）

品種	原産国	価格/単位
Kinnaur	インド	199ルピー / 4個
Granny Smith	輸入品・産地不明（表示なし）	299ルピー / 4個
	輸入品・産地不明（表示なし）	275ルピー / kg
Fuji	輸入品・産地不明（表示なし）	325ルピー / 4個
	輸入品・産地不明（表示なし）	398ルピー / kg
Red Delicious	米国	325ルピー / 4個
	米国	398ルピー / kg
Royal Gala	ニュージーランド	398ルピー / kg
不明（Live Organic）	インド	349ルピー / kg
不明（Nature's Miracle）	インド	275ルピー / 800g

■ 店舗：グルガオン Nature's Basket Le Marche @South Point Mall（2022年1月）

品種	原産国	価格/単位
Fuji	中国	449ルピー / kg
Granny Smith	輸入品・産地不明（表示なし）	449ルピー / kg
Red Washington	米国	430ルピー / kg

■ 店舗：ニューデリー Modern Bazaar @Select CITYWALK（2022年3月）

品種	原産国	価格/単位
Fuji	トルコ	392ルピー / kg
Red Washington	米国	395ルピー / kg
NZ Queen	ニュージーランド	327ルピー / kg
MT Erin	ニュージーランド	327ルピー / kg

※プロモーション割引後：248ルピー/kg

※プロモーション割引後：245ルピー/kg

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-27 りんごの小売販売価格例（ムンバイ）】

■ 店舗：ムンバイ Big Bazaar @Infiniti Mall（2022年2月）

品種	原産国	価格/単位
不明（Longview New Zealand）	ニュージーランド	332ルピー / kg
不明（Pink Lady #4130）	ニュージーランド	338ルピー / kg
Fuji 4129	ニュージーランド	376ルピー / kg
Red Delicious 4015	米国	279ルピー / kg
Red Delicious 4016L	米国	376ルピー / kg
Granny Smith (Adfruit IT)	イタリア	330ルピー / kg
Royal Gala (Alpita)	イタリア	310ルピー / kg

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-28 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ①】

■ 店舗：グルガオン Le Marche @South Point Mall (2022年1月)



左：インド産Kinnaur 199ルピー/4個
右：輸入・産地不明 Granny Smith 299ルピー/4個



左：輸入・産地不明 Fuji 325ルピー/4個
右：米国産 Red Delicious 325ルピー/4個



輸入・産地不明 Granny Smith 275ルピー/kg

出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-29 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ②】

■ 店舗：グルガオン Le Marche @South Point Mall (2022年1月)



輸入・産地不明 Fuji 398ルピー/kg



米国産 Red Delicious 398ルピー/kg



ニュージーランド産 Royal Gala 398ルピー/kg

出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-30 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ③】

■ 店舗：グルガオン Le Marche @South Point Mall (2022年1月)



インド産 (オーガニック) 349ルピー/kg



インド産 275ルピー/kg

出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-31 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ④】

■ 店舗：グルガオン Le Marche @South Point Mall (2022年1月)



輸入・産地不明 Fuji 449ルピー/kg



輸入・産地不明 Granny Smith 449ルピー/kg



米国産 Red Washington 430ルピー/kg

出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-32 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ⑤】

■ 店舗：ムンバイ BIG BAZAAR at Infiniti Mall (2022年2月)



ニュージーランド産 Longview
332ルピー/kg



ニュージーランド産
Pink Lady #4130
338ルピー/kg



ニュージーランド産
Mr Apple Fuji 4129
332ルピー/kg



出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-33 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ⑥】

■ 店舗：ムンバイ BIG BAZAAR at Infiniti Mall (2022年2月)



米国産 Red Delicious 4105
279ルピー/kg



米国産 Red Delicious 4106L
376ルピー/kg



イタリア産 Granny Smith
330ルピー/kg



イタリア産 Royal Gala
310ルピー/kg

出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (8) モダンリテールでの販売価格例

【図表3-34 りんごの小売販売価格例及び商品イメージ⑦】

■ 店舗：ムンバイ Hyper City (2022年2月)

- ✓ 売場面積の広大なハイパーマーケットに分類されるHyper CITYでは、幅広い種類のりんごを扱っている。
- ✓ 価格の明示されている商品の多くは前ページ (BIG BAZZAR) と重複するため、ここでは価格、品種情報の明確でない商品を扱う。

※カッコ内はラベルから読み取れる情報 (生産・販売に係る企業名)



トルコ産
(Sokerler)



トルコ産
(Gulbudak)



セルビア産
(Delta Agrar)



トルコ産
(Begum Trading)

出所：矢野経済研究所

2 流通構造調査

2.5 りんご (9) 参考資料

【図表3-35 輸入りんごの青果卸売市場への搬入イメージ】

- ✓ 2022年2月、チェンナイの青果卸売市場にて、40フィートコンテナ3本分のりんごが同日中に納品された際の様子。
- ✓ トルコ、ポーランドより異なる2種類の品種が到着。輸出者は一社でオランダ企業。

【納品された40フィートコンテナ (CAコンテナ*)】



【トルコ産、レッドデリシャス種】



【ポーランド産、ロイヤル・ガラ種】



*CA (Controlled atmosphere) コンテナ。リーファーコンテナの一種で、温度だけでなく酸素と二酸化炭素濃度を調整し青果物の貯蔵期間の延長を可能にする。

出所：矢野経済研究所